

鳥取県環境学術研究等振興事業費補助金研究実績報告書

研究期間（ 1年目/ 3年間）

研究者 又は 研究代表者	氏名	(ふりがな) おぐら ひろか 小椋 弘佳
	所属研究機関 部局・職	米子工業高等専門学校 建築学科 准教授 電話番号 0859-24-5173 電子メール ogura@yonago-k.ac.jp
研究課題名	商店街の公園化によるまちのリノベーション戦略 - とっとり方式の定式化 -	
研究結果	<p>1) 県内調査：県内事例13の商店街の再整備状況を整理するとともに、再整備の段階別の代表事例を対象に、再整備プロセスを、行政や商店街組合、事業者などの関係機関へのヒアリング調査および文献調査、現状の図面化から明らかにした。</p> <p>2) 全国調査：公園化による再整備の県外事例として福山市福山本通りを対象に、現地調査、ヒアリング調査より、整備概要を把握した。</p>	
研究成果	<p>0) アーケード商店街の変遷とアーケードの地域活性化に対する役割を、文献調査より整理した。次いで、アーケード撤去がその後の地域活性化にどのような影響を及ぼしているのかを確認するために、既往研究レビューから、現時点での全国的な傾向を整理した。その結果、アーケードは撤去しただけでは地域活性化に寄与せず、その後の整備が重要となることがわかった。</p> <p>1) 県内調査：県内事例13の商店街のうち、とくに米子市の事例（撤去のみ：笑い通り、公園化：法勝寺町、元町）について整備状況を行政および商店街関係者へのヒアリング調査より把握した。具体的な調査項目は、アーケードの改修や撤去、撤去に合わせた整備プロセス、現在抱える課題点などとした。また、公園化あり・なしの商店街における整備前後の利用状況を比較することで、公園化整備はにぎわい創出の効果があることがわかった。</p> <p>2) 全国調査：公園化による再整備事例として、福山市本通り商店街の現地調査および整備関係者へのヒアリング調査を実施し、整備の概要を把握することができた。</p>	
次年度研究計画	<p>1) 個別事例調査1： 県内の公園化した商店街（米子市法勝寺町、米子市元町）を対象に、整備事後実態を行政や商店街組合、事業者へのヒアリング調査から明らかにする。得られた知見から、より詳細な公園化した商店街の事後実態と再整備を進める上での課題を抽出する。</p> <p>2) 全国調査1：公園化による再整備の県外事例（福山市福山本通り、小倉市魚町サンロード）を現地調査、ヒアリング調査、アーケード再整備の図面化より把握する。</p> <p>3) 全国調査2：全国のアーケード撤去商店街を抽出し、その中で鳥取県の事例の位置付けを行い、特徴を明らかにする。</p> <p>以上の調査より、公園化再整備の可能性を検討する。</p>	
報告責任者	所属・職 氏名	総務課 企画・社会連携係 福留のぞみ 電話番号 0859-24-5007 電子メール kikaku@yonago-k.ac.jp

- 注1) 表題には、環境創造部門、地域振興部門、北東アジア学術交流部門のいずれかを記載すること。  
 2) 「研究期間（ 年目/ 年間）」及び「次年度研究計画」は、環境創造部門及び地域振興部門において記載すること。  
 3) 研究者の知的財産権などに関する内容等で、非公開としたい部分は、罫線で囲うなど明確にし、その理由を記すこと。  
 4) 研究実績のサマリーを併せて提出すること。

全蓋式アーケード商店街におけるアーケード撤去と広場化に関する研究  
—鳥取県米子市の3商店街を対象として—

全蓋式アーケード 広場化  
アーケード撤去 商店街活性化

準会員 ○小川 祥吾\*  
正会員 小椋 弘佳\*\*

1. 研究の背景と目的

一般的に商店街のアーケードは公道上に歩行者のための利用しやすい環境を生み出すツールとして設置され、まちのにぎわい創出に大きく寄与していた。現存するアーケードの多くは昭和40年ごろに設立され、すでに50年が経過しているため老朽化が進み維持・管理が急務となっている。しかし多くの商店街はアーケードの維持管理費用・改修費用の捻出に苦勞しており、今後アーケードの撤去を含めた整備方針の検討が進むものと考えられる。既往研究では、すでに撤去に至った商店街は、「今後の維持管理費用負担を避けるため渋々撤去を行った、対処型商店街」と「撤去と併せた相乗効果を狙った、積極型商店街」に分けられ、撤去後の商店街の傾向が大きく異なるとされる<sup>1)</sup>。こうした中で、積極型商店街の一例である鳥取県米子市の法勝寺商店街と元町通り商店街は、アーケード撤去に合わせてコミュニティ道路としての広場化整備に至った全国でも先進の事例である。しかし、アーケード撤去に関する研究としては、撤去による商店街への効果影響<sup>2)</sup>や撤去に至った経緯・目的<sup>3)</sup>を明らかにしたものがあがるが、広場化整備に至った商店街の実態を明らかにしたものはない。そこで、米子市内アーケード撤去商店街のうち、笑い通り商店街（以下笑い通り）・法勝寺商店街（以下法勝寺）・元町通り商店街（以下元町通り）の3商店街を対象とし、広場化整備を実施した商店街とそれ以外の商店街を比較分析する。

2. 調査方法

まず、全国的全蓋式アーケードの変遷過程を整理するために文献調査<sup>1)2)3)4)5)6)7)</sup>を行う。次に、米子市内の3商店街のアーケード撤去と整備プロセスを明らかにするために、各商店街連合会・商店会会長および米子市役所へのヒアリング調査<sup>11)</sup>を行う。そして、その調査結果をもとに3商店街のアーケード撤去前後の整備過程をまとめ、広場化した商店街とそれ以外の商店街で比較・分析することで広場化した商店街の特徴を明らかにする。

3. 全国的全蓋式アーケードの整備の変遷(表1)

ここでは、文献調査から全国的全蓋式アーケードの整備の変遷を、年表を作成して把握した(表1)。

全蓋式アーケードの変遷は、【日覆い期】と【第1期勃興期】から【第4期成熟期】、そして【第5期低迷期】

表1 全国的全蓋式アーケードの整備の変遷

西暦	時代区分と特徴	時代変遷の要点	
1661(寛文元)	日覆い期 江戸時代、寛文年間に記された高知の現「魚の欄商店街」が最も古い記録。大阪・京都でも記録が見られる。 ・分布範囲は京阪神を中心に西日本にとどまる。 ・大塚は「おだれ」と呼ばれるものであったが、これはたびたび規制され、法令も出された。 ・向かい合う家屋の軒から軒へ布を渡す「軒から軒」タイプ ・大正時代は「桁+支柱タイプ」が普及したが、構造的に不安定であったため昭和期には「梁+支柱タイプ」に変遷 ・WW2の金属供出のため、昭和10年代後半に解体が相次ぎ、戦争末期にはほぼすべての日覆いが撤去されたと考えられる。	【日覆い期→1期】 目的は鮮食食品の日除けのためから商品の日焼け防止のためへと変化した。 政策面での整備が進み、分布範囲は京阪神地域から西日本全体へと拡大した。 戦後に復活した日覆いが、「近代アーケード」となる。	日覆い
1912(大正7)			アーケード
1918(大正7)			
1925(大正14)			アーケード
1931(昭和6)			
1938(昭和13)			アーケード
1945(昭和20)	(1)第1期・勃興期 昭和20年代後半～昭和35年前後		
1948(昭和23)	・シルバーアーケード及びシルバーオープニングが施工される		アーケード
1951(昭和26)	・昭和20年代後半から各地で近代アーケードが建設され始める		
1954(昭和29)	・昭和30年2月1日に建築省から「アーケードの取り扱いについて」が通達され、これ以降はこの基準に従って建設される。1959 元町通り アーケード完成	【1期→2期】 屋根を開閉する目的が「排煙のため」から「青空を見えるようにするため」に移り変わった。 アーケードは商店街に何らかのイメージや付加価値を与える存在へと変化する。	アーケード
1957(昭和32)	1959 法勝寺 アーケード完成		
1960(昭和35)	(2)第2期・発展期 昭和35年前後～昭和45年前後		アーケード
1966(昭和41)	・主に合掌型アーケード及び梁型アーケードを施工・アーケードの施工数が急激に増加する	【2期→3期】 大型小売店に対抗するため商店街は「横のデハバート化」という手法をとった。 アーケード内部空間を室内に近づけるための工夫を行う。	
1970(昭和45)	(3)第3期・展開期 昭和45年前後～昭和55年前後		アーケード
1972(昭和47)	・主にルーバー型アーケードが施工された	【3期→4期】 商店街は大規模小売店に対抗し、アーケードに明るく開放的なイメージを求めた。 アーケードデザインがまちづくりの一環としてとらえられる。	
1976(昭和51)	・まだまだ新規のアーケードが多い		アーケード
1978(昭和53)	1972 法勝寺 新アーケード完成 1972 笑い通り アーケード完成		
1980(昭和55)	(4)第4期・成熟期 昭和55年～平成2年		アーケード
1986(昭和61)	・主にドーム型アーケードが施工された	【4期→5期】 他の商業施設に対抗してきたが、かえってアーケード本来の意図を失ってしまった。 これからのアーケード像を考える必要のある時代へ。	
1988(昭和63)	・第1期・第2期に建設されたアーケードの全面改修・改装		アーケード
1990(平成2)	・現段階では新しい形式のアーケードの出現が見込みにくい		
2000(平成12)	(5)第5期・低迷期 平成2年～平成20年		アーケード
2004(平成16)	・新規に設置するアーケードはほとんどなし。 ・撤去件数が1990年代に増加、2000年代に急増。 ・アーケードを有する商店街は維持管理費用等に悩まされ、維持・撤去どちらも費用不足で困難な状況。 ・アーケードを撤去してしまった商店街は、積極型と対処型に分かれ、積極型は撤去後も改善の傾向	【5期→6期】 アーケードを撤去してしまった商店街はこれから、商店街の活性化を支えてきた共同体(コモンズ)のあり方を見直し、今後の商店街活性化に役立てることが必要である。	
2008(平成20)	(6)第6期・摸索期 平成20年～現在(平成29年)		アーケード
2010(平成22)	・米子市 法勝寺商店街		
2011(平成23)	・アーケードを撤去し、中央3mを残した残りの部分を芝生化。大きな木となる植木鉢を配置し、将来的には森の中の散歩道を目指す	アーケード撤去商店街は、その経緯と目的から4つに分類される(表4)。	アーケード
2013(平成25)	2011 法勝寺 2013 元町通り アーケード撤去		
2017(平成29)	2014 笑い通りアーケード撤去		

降)の7時代に区分される。【日覆い期】では、日覆いという全蓋式アーケードの前身にあたる、道路両側の桁から桁へ布製の覆いを渡し、必要な時のみ道路前面に広げ、 unnecessary 場合には折りたためるようにした仮設性の高い施設が<sup>5)</sup>、江戸時代末期から京阪神地域を中心として徐々に西日本へと範囲を広げた。しかしその多くは第二次世界大戦で金属供出のため消失した。戦後にあたる【勃興期】に施工され始めたのが、屋根を金属施工した現在のアーケードである。屋根を開閉できるアーケードの役割は、日覆い時代の日除け・商品の日焼け防止のためから、青空を見えるようにするためへと変化した。アーケード

は機能的な存在から商店街にイメージを向上させるための存在へと変化したといえる。【発展期】からアーケードの施工数は急増し、【成熟期】まで建設ブームは続いた。この間のアーケードの変遷には大型小売店・スーパー増加が大きく影響した。アーケード商店街はこれらに対抗すべく、「横のデパート化」「自然光の採用」といった商店街固有のイメージを求めるようになった。【低迷期】に入ってからアーケードの新規施工はほぼない。また、多くのアーケードは施工から50年が経過し老朽化し始めた為、改修・維持管理するか撤去するか、選択するようになる。撤去を選択したアーケード商店街のなかで、ただ撤去だけでなく広場化といった新しい整備方法が出てきたのが【模索期】である。

#### 4. アーケード撤去の経緯と目的による分類(表2)

ここでは、【低迷期】から【模索期】における全国のアーケード撤去商店街を、撤去に至った経緯と目的から分類した(表2)。

「低迷期」になりアーケードを撤去した多くの商店街は、撤去に至った経緯と目的から4分類される。経緯による分類として、関連事業型とは商店街以外の事業主体によって行われる土地区画整理事業等の大規模なハード事業により撤去するものを指し、単独撤去型とは維持管理・補修に伴う費用負担の増加等の理由により撤去するものを指す。目的による分類として、積極型とは商店街の印象向上・撤去と合わせた相乗効果を期待し撤去するものを指し、対処型とは改修費用・今後の継続的な維持管理費用負担困難のために撤去したものを指す。

【模索期】になり、「単独撤去型かつ積極型」は、【②-1 広場化なし】と【②-2 広場化あり】の2つに分類される。【広場化なし】は街灯整備・カラー舗装等に留まった商店街を指し、米子市では笑い通りが該当する。【広場化あり】は広場化など新たな整備に取り組んだ商店街を指し、米子市では法勝寺と元町通りが該当する。これから

アーケード撤去後の整備を問われる時代となる中で、この2商店街の整備手法は全国の商店街の参考になると考えられる。

表2 アーケード撤去の経緯と目的による分類

アーケード撤去商店街		撤去に至った経緯	
		関連事業型	単独撤去型
撤去の理由・目的	積極型	①	②-1 ②-2
	対処型	③	④

#### 5. 米子市内のアーケード撤去商店街の撤去、整備前後の実態(表3)

ここでは、米子市内の元町通りと法勝寺【広場化あり】、笑い通り【広場化なし】の3つのアーケード撤去商店街におけるアーケード撤去、整備前後の実態をヒアリング調査から明らかにした(表3)。

【撤去要因と主体組織】撤去の要因は3商店街とも維持管理費用の増加、耐用年数を迎えていることだった。純粋に積極的な理由のみで撤去する商店街はないが、補助金の支援を得るためにどの商店街も前向きに整備しているため積極型といえる。また、撤去の主体組織は笑い通りと元町通りでは商店街振興組合であった。法勝寺は株式会社を設立し主体組織とした。これは撤去の主体組織が商店会の場合補助金を得ることができないためである。【整備内容】3商店街でアーケード撤去+建物改修の形態をとっている。アーケード撤去単体では消極的な事業なので補助金を得られにくい。事業内に建物改修という積極的な要素を組み込むことで補助金の公募対象となる。また元町通りと法勝寺は、広場化に加えて「元町パティオ」「芝生舗装」を整備していることは双方の整備方法の特徴づけている。【整備内容の選択理由と決定者】元町通りと法勝寺は、まちづくり(推進)委員会が住民意見と設計者提案を参考に整備内容を決定している。同商店街は広場化整備にあたり商店街住民の合意形成が大きな

表3 米子市内のアーケード撤去商店街のアーケード撤去後の撤去、整備、整備後の実態

		②-2【公園化あり】		
		元町通り商店街	法勝寺商店街	笑い通り商店街
商店街組合	組合名	元町通り商店街振興組合 (日野町商店会と道笑町商店会が連合)	法勝寺商店街 法勝寺商店会 (法勝寺商店街連合組合解散後任意団体として設立)	笑い通り商店街 笑い通り商店街振興組合 (東倉吉町商店街振興組合と西倉吉町商店会が統合)
	組合設置年	s27(1952)	h20(2008)	不明
アーケード	設置年	s34(1959)	s34&s47(1959&1972)	s47(1972)
	撤去年	h25(2013)	h23(2011)	h26(2014)
	撤去の要因	維持管理費用増加+耐用年数	老朽化+維持管理費用増加	維持管理費用+耐用年数
	撤去の際主体となった組織	商店街振興組合	株式会社(株式会社法勝寺町)	商店街振興組合
	撤去と併せて行った整備	建物改修(地域交流センターさん)+交流広場(元町パティオ)+公園化	建物改修(第五郎蔵)+公園化	建物改修(地域交流センター-笑い庵)
	整備の際主体となった組織	商店街振興組合+株式会社(株式会社元町)	株式会社(株式会社法勝寺町)	商店街振興組合+株式会社(株式会社笑い庵)
	整備を行った理由	補助金を得るため(戦略的中心市街地商業活性化支援事業費補助金)	補助金を得るため(戦略的中心市街地商業活性化支援事業費補助金)	補助金を得るため(商店街まちづくり事業費補助金)
	整備内容の選択理由	法勝寺を参考に+設計者提案	住民意見+設計者提案	商店街提案による自動車通行のため
	整備内容の決定者	住民+まちづくり推進委員会	住民+設計者+まちづくり委員会	住民+商店街振興組合
	整備内容決定者の主な役割	合意形成・資金調達	合意形成・資金調達	資金調達
整備後	撤去後の利点	青空が見える&落下物の心配なし	維持負担金の軽減	特になし
	撤去後の不満点	日焼けはみ出し		特になし
	来場者数	増えてきている	若干増	変化なし
	店舗数	増えて減った	若干増	変化なし
	空き家について	借り手はいるが貸し手がいない	借り手はいるが貸し手がいない	努力はしているが借り手がいない
	空き地について	まとまった土地があると買い手がつく	まとまった土地があると買い手がつく	努力はしているが借り手がいない
イベントなどのソフト面	イベント様々な開催	チャレンジショップ等積極的にイベント開催	特になし	
道路幅員(m)		6.1	6.1	5.7
		3.4	3	3.1

課題となった。笑い通りは商店街振興組合がアーケード設置時代から続く時間指定の自動車通行許可を継続することを優先し、広場化などの路面整備は行っていないため、商店街住民の合意形成がスムーズに進んだ。【整備後の実態】アーケード撤去による利点は、維持管理費の軽減が挙げられた。特に照明を水銀灯からLED照明に変更したことは電気代削減に大きな効果があった。またアーケードが無くなったことで青空が見えるようになったことは、それまでの怖い・暗いといったイメージを変えた。一方、不満点としては商品の日焼けが挙げられた。主に元町通りと法勝寺は呉服店や骨董店の多い商店街であるため、その影響は大きい。また店先の路上に商品を並べる「はみ出し」も行えなくなっている。【来場者数・店舗数】は元町通りと法勝寺で若干増加し、笑い通りでは変化しなかった。元町通りと法勝寺では、ある程度のまとまった空き地が発生すると主にアパート建設のための買い手が見つく。また、空き家は店舗部分が空いているものが多数あるがそれらの多くは所有者が存在しているため借り手が入りにくい状況にある。反面、笑い通りは空き家バンクなどを活用しているが空き家・空き地に対する借り手がない現状にある。すなわち、広場化ありの商店街で来場者数・店舗数そして空き家・空き地の状況で若干の改善傾向にあるといえる。【整備後のイベントなどのソフト面】も3商店街を特徴づけている。元町通りと法勝寺は整備後も様々なイベントを行っているのに対し笑い通りはイベントを行っていない。この理由は、各商店街のアーケード撤去後の整備プロセスの違いにあると考えられる。広場化ありの商店街は、商店街住民の同意を得る際にまちづくり委員会と住民が意見交換することで、商店街住人同士やまちづくり委員会と住民の関係・理解が深まる。こうした商店街としての団結が、イベントをはじめとした商店街としてまとまる必要のある整備後の持続的な取り組みを誘発できた要因であると考えられる。

## 6. 米子市内3商店街と周辺建物の利用状況、及び元町通り商店街と法勝寺商店街の整備状況(図1)

米子市内3商店街と周辺建物の利用状況、及び元町通りと法勝寺の整備状況を空間的に把握した(図1)。

法勝寺は芝生舗装を主として整備された。緊急車両通行用の幅員3mをブロック舗装とし、ブロック部分が蛇行するように設けられた芝生舗装部分には植栽、フットライトなどの設置物を配置している。元町通りは元町パティオを主とした整備を特徴としている。元町パティオとは、グリーンス阻集器を備えた洗い場、ベンチ、音響施設などを整備した広場であり、イベント時などに屋台などが出店しやすい環境を整えている。路面整備は緊急車両通行用の幅員3mを有する中央部とその他の側部でブロック色を変えており、側部には設置物を配置している。両

商店街は、道路中央部の幅3m部分は同系色のブロック舗装で統一されていること、設置物の一つである植栽が鉢に植えられ配置され配置後の移動を可能とすること、植栽を含めた全ての設置物を商店街が管理していることが共通している。一方、笑い通りは時間指定の自動車通行を可能にしたため、路面は全面カラー舗装となっている。また、通行する自動車の事故を防止するため路上には設置物を設置していない。

撤去後に増えた商店は笑い通りで1店舗(全47件のうち占める割合2%)、法勝寺で4店舗(33件のうち9%)、そして元町通りで5店舗+元町パティオ(68件のうち9%)で、【広場化なし】と【広場化あり】で差がある。また、空き地、駐車場も笑い通りの10か所(21%)に対し法勝寺は2か所(6%)、元町通りは5か所(7%)と違いがみられる。

法勝寺は路面の芝生舗装を、元町通りは元町パティオを特徴とした整備を行っており、3商店街の周辺建物利用状況は【広場化なし】と【広場化あり】で差が生じていることがわかる。

## 7. まとめ

アーケードを撤去した米子市の3商店街は共通して、主に維持管理費負担の増加を撤去の要因としているが、撤去の際、建物改修を併せて行う積極的な事業を行っている。しかし、整備後の傾向には【広場化あり】と【広場化なし】で差があった。笑い通りでは来場者数と店舗数に変化がほぼなかったことに対し、元町通り・法勝寺では増加傾向であり、空き家・空き地にも数件の実績がみられた。これには、アーケード撤去後の整備プロセスが関係していると考えられる。整備内容決定に際し、整備の主体組織が話し合いの場を設けることでまちづくり委員会と住民、また住民同士の関係・理解が深まり、商店街としての団結が生まれ、整備後の持続的な取り組みを誘発できたことが商店街活性化につながったと考えられる。広場化のメリットとして、整備主体の団体と住民などの良好な関係形成や商店街のにぎわい創出を行いやすいことの他に、維持管理費用の軽減、良好な景観の創出などが挙げられる。しかし、デメリットとして日焼け、雨などの天候による店舗と客双方の影響や設置物の維持管理を行う必要があることなどが挙げられるため、今後これらの問題を解決していくことが重要である。

## 謝辞

最後に、ヒアリング調査にご協力頂いた法勝寺商店会会長様、元町通り商店街振興組合会長様、笑い通り商店街振興組合会長様、米子市企画部地域政策課中心市街地活性化計画推進室のみなさまなど、関係者の方々に心から謝意を表します。なお、本研究は鳥取県環境学術研究等振興事業(地域振興部門)の一環として実施した。

## 参考文献

- 1) 中島玲欧他: 地方都市の中心市街地商店街における全蓋式アーケード撤去の動向と実態に関する研究, 日本都市計画学会都市計画論文集, No.43-3, 2008.10
- 2) 竹下賢治: 地方都市の中心市街地商店街におけるアーケード撤去の実態と効果に関する考察—福知山市広小路商店街における片側アーケード撤去の事例として—, 日本建築学会大会学術講演梗概集(九州), 2016.8
- 3) 辻原万彦他: 西日本における都市のアーケードの成立および発展過程, 日本建築学会計画系論文集, 第524号, 215-222, 1999.10

- 4) 辻原万規彦他：東日本における都市のアーケードの成立と変容過程,日本建築学会計画系論文集,第584号,51-58,2004.10  
 5) 辻原万規彦・藤岡里圭：アーケードの原型としての日覆いに関する研究,日本建築学会計画系論文集,第596号,85-92,2005.10  
 6) 米子商工会議所一〇〇周年記念 米子商業史 平成2年3月31日発行 編集：米子商工会議所  
 7) 米子市商店街連合会五十周年記念 創立50周年記念誌 平成14年5月3日発行 編集：米子商店街連合会

注釈

注1) ヒアリング先・日時は以下の通りである。米子市役所：2017年9月29日 米子市企画部地域政策課 中心市街地活性化計画推進室室長、法勝寺商店街：10月15日 法勝寺商店会会長、元町通り商店街：10月19日14時-15時 元町通り商店街振興組合会長、笑い通り商店街：10月29日 笑い通り商店街振興組合会長

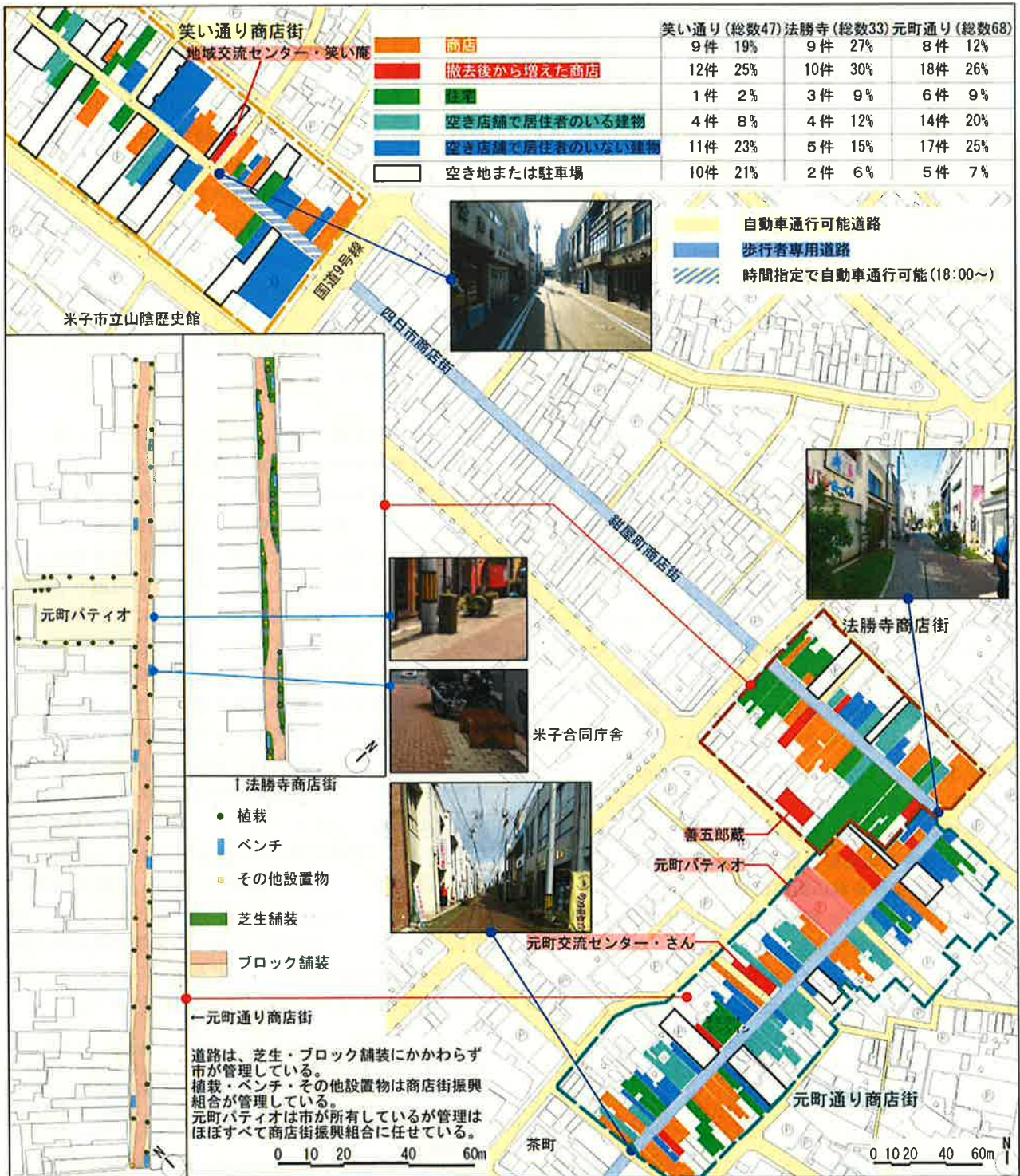


図1 米子市内3商店街と周辺建物の利用状況、及び元町通り商店街と法勝寺商店街の整備状況

\* 米子工業高等専門学校専攻科建築学専攻  
 \*\* 米子工業高等専門学校建築学科 助教・博士(工学)

\* Dept. of Architecture, National Institute of Technology,  
 Yonago Collage, Advanced Course  
 Assoc. Prof., Dept. of Architecture, National Institute of Technology,  
 Yonago College, Dr. Eng.